

令和5年11月6、7日と1泊2日で姫路市・赤穂市・三木市に大学同期5人で観光してきました。

1 姫路城 (パンレット)

世界遺産・国宝 姫路城

姫路城は、日本で現存する最大の城郭建築であり、巧妙な縄張りや多様な石垣、連立する大天守・小天守、櫓、門などの全てに日本の城の魅力が凝縮されています。

平成5年12月、奈良・法隆寺地域の仏教建造物とともに、日本で初めてユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の「世界遺産（文化遺産）」に登録され、平成27年には、5年半にわたる大天守保存修理を終え、グランドオープンを迎えました。

姫路城の特徴である連立式天守と白漆喰総塗籠の優美な姿は、別名「白鷺城」とも言われています。

姫路城の主な出来事

- | | |
|--------------|--|
| 1333年(元弘3年) | 赤松則村(円心)、姫山に砦を築く。 |
| 1346年(貞和2年) | 赤松貞範、姫山に本格的な城を築く。 |
| 1577年(天正5年) | 羽柴秀吉、播磨侵攻。 |
| 1580年(天正8年) | 黒田官兵衛孝高、城を秀吉に献上。 |
| 1581年(天正9年) | 秀吉、3重天守の姫路城を築く。 |
| 1600年(慶長5年) | 池田輝政が城主に。 |
| 1601年(慶長6年) | 輝政、姫路城大改築を始める。 |
| 1609年(慶長14年) | 5重7階の連立式天守完成。 |
| 1617年(元和3年) | 本多忠政、伊勢国桑名から入封。 |
| 1618年(元和4年) | 忠政、嫡子忠刻とその室 千姫(徳川秀忠長女)のために西の丸を造営。 |
| 1749年(寛延2年) | 酒井忠恭、上野国前橋から入封。 |
| 1868年(明治元年) | 酒井忠邦、版籍奉還を申し出。 |
| 1873年(明治6年) | 姫路城、存城が決定。 |
| 1910年(明治43年) | 明治の大修理始まる。
(～1911年(明治44年)) |
| 1951年(昭和26年) | 姫路城天守など8棟、国宝に指定。 |
| 1956年(昭和31年) | 大天守等の解体修理(昭和の大修理)始まる。
(～1964年(昭和39年)) |
| 1993年(平成5年) | 日本初の世界遺産に登録。 |
| 2009年(平成21年) | 大天守の保存修理工事始まる。(平成の修理)
(～2015年(平成27年)) |
| 2015年(平成27年) | 姫路城グランドオープン |



昭和の大修理



天空の白鷺
(平成の修理)

◆姫路城データ

国	宝	大天守、西・乾・東小天守、イ・ロ・ハ・ニの渡櫓の8棟
重要文化財		櫓・渡櫓27棟、門15棟、土塀32棟の計74棟
形式		平山城
敷地		内曲輪(うちくるわ)内は23ha 外曲輪(そとくるわ)内は233ha
大天守の高さ		海拔91.9m (姫山45.6m、石垣14.8m、建物31.5m)
大天守の構造		5重7階 「重」は、外観の屋根の数
世界遺産登録		平成5年

城内の見どころ

美しさ

白漆喰の城壁と大天守。三つの小天守が、お互いを引き立て合うように重なり合い、千鳥破風や唐破風などの装飾が華やかさを演出しています。壮大なスケール感と繊細さを合わせ持つその景観をご覧ください。

連立式天守



大天守を守るように東、西、乾(いぬい)の三つの小天守が渡櫓で結ばれて連立している、「連立式天守」が完全な形で残っています。

菱の門



城内で最も大きい門。両柱上の冠木(かぶき)に木彫りの菱の紋があることからこの名前が付けられました。火灯窓(かとうまど)など安土桃山時代の優雅な雰囲気を残した意匠が特徴です。

白漆喰総塗籠

漆喰(消石灰に糊を混ぜた壁塗りの材料)で木地が見えないように覆い塗る手法。火災に備えるとともに、築城の頃に普及していた火縄銃の射撃によって延焼しないように採用されました。

強さ

姫路城には、戦いへの備えを意識した仕掛けが多く見られます。城内はまるで迷路のように入り組んだつくりになっており、なかなか大軍では侵攻することができません。またさまざまな防御設備が施されています。攻め手の気持ちになって見学すると、守りの城としての実用性の高さを感じていただけます。

狭間



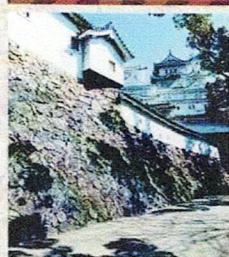
櫓や土塀などの壁面に開けられた穴で、長方形で弓を射る矢狭間と円形や三角形などの鉄砲狭間があります。防御設備である狭間が整然と配置され美しい景観をつくりだしています。姫路城には約1,000か所の狭間が残っています。

石落とし



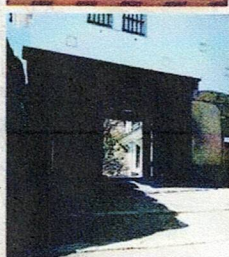
石垣を登ってくる敵に石を落としたり、鉄砲を撃ったりできる仕掛け。天守閣のほか、塀や櫓にも多数施されています。

城内道

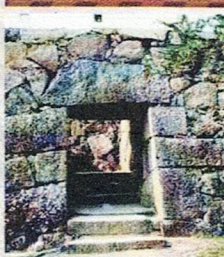


城内道は迷路のようになっており、枝分かれする道や鉄扉のついた頑丈な門、一人一人がやっと通れるような抜け穴のような門など、敵を容易に大天守へ到達させない様々な工夫があります。

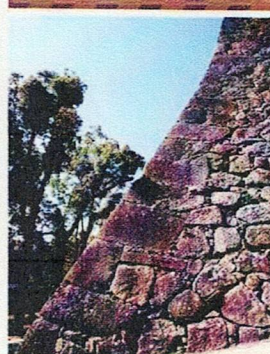
門



るの門



扇の勾配



上にいくほど反り上がるような形状の石垣になっており、開いた扇の曲線に似ていることからこの名がつけられました。敵を容易によじ登らせないための工夫だといわれています。

姫路城年表

西暦	和暦	できごと
1333 年	元弘 3 年	赤松則村(円心)、護良親王の命により挙兵。京に兵をすすめる途中、姫山に砦を築く。
1346 年	正平元年	赤松貞範、姫山に本格的な城を築く。
1441 年	嘉吉元年	嘉吉の乱。赤松満祐父子、六代将軍足利義教を謀殺し、自害。山名持豊、姫路城を治める。
1467 年	応仁元年	応仁の乱。赤松政則、姫路城を陥落し、領国を回復。本丸、鶴見丸を築く。後に一族の小寺氏、その重臣の黒田氏が城をあずかる。
1580 年	天正 8 年	羽柴秀吉の中国攻略のため、黒田孝高、城を秀吉に献上。秀吉、3 層の天守閣を築く。
1585 年	天正 13 年	木下家定、姫路城主となり 16 年間治める。
1600 年	慶長 5 年	関が原の戦の後、池田輝政が姫路城主に。
1601 年	慶長 6 年	池田輝政、城の大改築を始める。1609 年(慶長 14 年)に 5 重 7 階の連立式天守完成。
1617 年	元和 3 年	池田光政、鳥取城へ移る。本多忠政、姫路城主に。三の丸、西の丸、そのほかを増築。
1639 年	寛永 16 年	松平忠明、姫路城主となる。
1649 年	慶安 2 年	榊原忠次、姫路城主に。その後、松平、本多、榊原各氏が城主に。
1749 年	寛延 2 年	酒井忠恭、前橋から姫路へ。明治維新まで酒井氏が城を治める。
1869 年	明治 2 年	酒井忠邦、版籍を奉還し、姫路城は国有に。
1931 年	昭和 6 年	姫路城天守閣、国宝に指定される

2 大天守最上階にある刑部神社



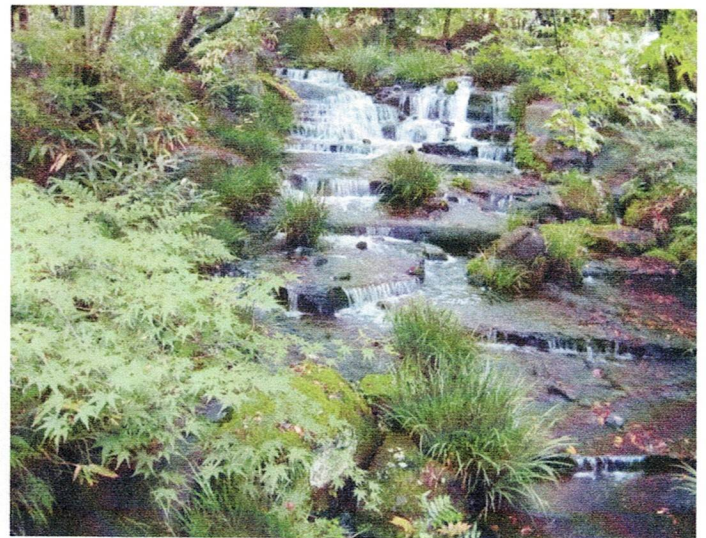
木下家定が城主であった時代のこと、姫路に立ち寄った宮本武蔵が名前を隠して足輕奉公をしていました。そのころ、城に妖怪が出るといううわさが広まっていたましたが、武蔵が平気で夜の出番を勤めていたことが家老の耳に入り、名高い武芸者であることが知られました。

木下家の客分にとりたてられた武蔵に、妖怪退治の命が下りました。武蔵がある夜、灯ひとつを持って天守閣に登り、3 階の階段にさしかかった時、すざましい炎が吹き降り、地震のような音と振動が。武蔵が腰の太刀に手をかけると、辺りはまた元の静けさに戻りました。4 階でもまた同じことがありましたが、構わず天守に登り、明け方まで番をしていたところ、美しい姫が現れ「われこそは当城の守護神、刑部明神なり。その方がこよい参りしたため、妖怪は恐れて退散したり。よって褒美にこの宝剣を取らす。」とって姿を消しました。武蔵の前には白木の箱に入った郷義弘の名刀が残されていたということです。

3 好古園（こうこえん）

好古園は兵庫県姫路市の姫路公園（姫路城）内にある日本庭園。正式名は姫路城西御屋敷跡庭園好古園。「好古園」とは、江戸時代に現在の庭園入口付近に存在した藩校「好古堂」に因むものである。

古地図『姫路侍屋敷図』を基に特別史跡地の姫路城西御屋敷跡で発掘調査で確認された西御屋敷（1618年〈元和4年〉造営）・武家屋敷等の遺構をそのまま生かして作庭された総面積3.5ヘクタールの池泉回遊式庭園群である。9つの日本庭園で構成され、其々が屋敷割遺構どおりに築地塀等で仕切られていることを特徴とする。各庭園入口には長屋門・屋敷門、園内には渡り廊下など江戸時代の建築が再現されていることなどから、時代劇や大河ドラマの撮影地にもなっている。造園学者の中村一ほか、地元の若手造園家の協力により庭園の設計が行われた。



4 千姫の生涯（西の丸）

ドラマチックな人生がわかる！
千姫の生涯

ドラマチックエピソード①

浅井家三姉妹・お江の娘

千姫は戦国時代きつてのプリンセス。徳川家康の孫で、父はのちの2代将軍・秀忠、母は織田家の血を引く浅井三姉妹の末妹・お江です。2歳にして豊臣秀吉の子・秀頼と婚約し、7歳で結婚。祖母（お市）や母と同様、波乱に満ちた人生を送ることになります。

ドラマチックエピソード②

大坂城からの脱出・ 本多忠刻との運命の出会い

千姫は、大坂夏の陣で燃え盛る大坂城から父・秀忠のもとに救い出されます。夫・秀頼の助命嘆願をしますが聞き入れられず、婚家の豊臣家は滅亡。失意に沈む千姫でしたが、大坂城から江戸に送り届けられる道中、桑名の七里の渡しの船中で本多忠刻と出会い、恋に落ちたといわれています。

ドラマチックエピソード③

興入れの襲撃計画

運命の相手・忠刻へ再嫁が決まった千姫。しかし津和野藩主・坂崎直盛がその興入れの行列を襲い、千姫を強奪するという計画が発覚します。直盛は誅され、坂崎家は改易に。この事件は、大坂城落城の際、家康が「千姫を助けた者に千姫を与える」と約束しましたが、救出した直盛を千姫が拒絶したことが原因だと伝えられます。

ドラマチックエピソード④

西の丸の建設

姫路藩主となった本多家は傷心の千姫を大切に扱い、千姫の化粧料10万石で姫路城西の丸を整備します。忠刻と千姫の屋敷や化粧櫓のほか、庭園まで美しく誂えあつらました。眉目秀麗な忠刻と美しい千姫は仲睦まじい生活を送り、長女・勝姫、長男・幸千代が誕生。千姫は領民から「播磨姫君」と呼ばれ、敬愛されました。

ドラマチックエピソード⑤

千姫天満宮に祈りを捧げて

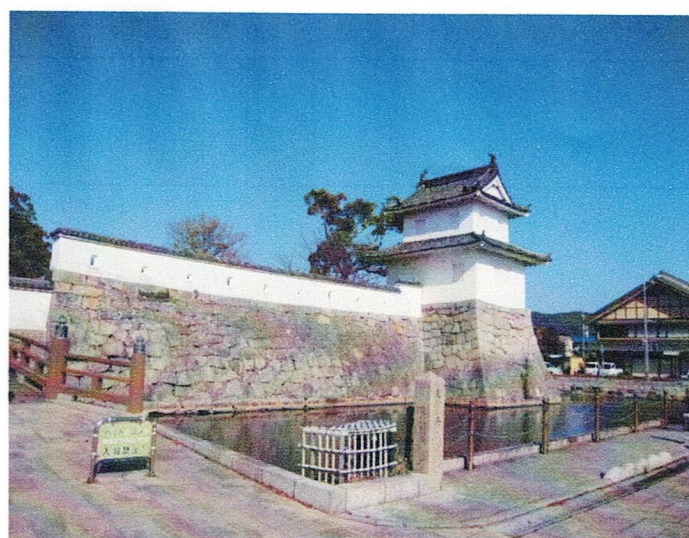
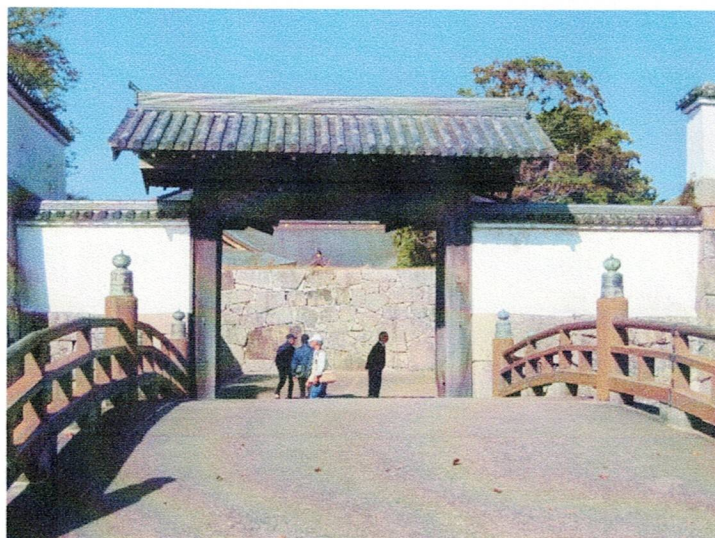
千姫は本多家の繁栄を祈って、化粧櫓から望む男山に天満宮を建立し朝夕祈りをささげましたが、幸せは長くは続きません。長男の幸千代は3歳で病死し、その後も次々と流産。さらには最愛の夫・忠刻まで結核で亡くし、姑・熊姫、母・お江も死去してしまうのです。

ドラマチックエピソード⑥

落ち着いた生涯を終える

失意の千姫は江戸に戻り、落飾して天樹院てんじゅいんと号します。娘の勝姫を鳥取藩主の池田光政に嫁がせた後は、弟で3代將軍の家光いえみつや4代將軍・家綱の相談相手として一族を支えました。激動の戦国時代に翻弄された人生でしたが、太平になった世を目にしてから、その最期を迎えました。

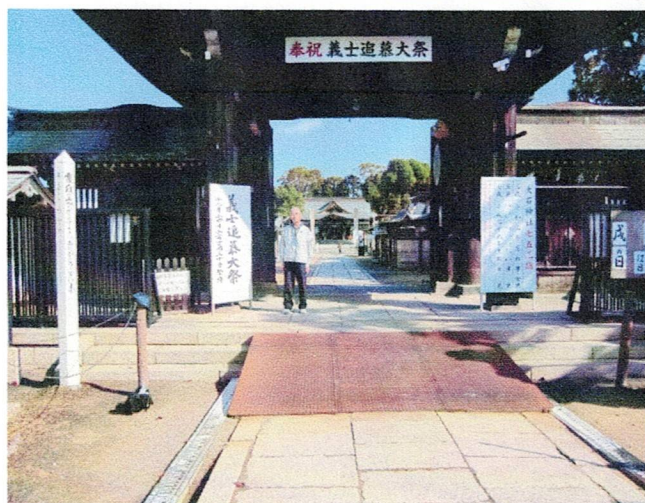
5 赤穂城跡



赤穂城は、正保2年（1645）に常陸国笠間から53500石で入封した浅野長直が、近藤三郎左衛門正純（赤穂藩家老・軍学者）に命じて、慶安元年（1648）から寛文元年（1661）まで13年を費やして完成させた城です。浅野家以後、永井家、森家と明治の廃藩置県まで二百年にわたって赤穂藩の居城であった。

赤穂城の特徴として以下の三つが挙げられる。石垣を屈折させ二方面の攻撃を考慮した甲州流軍学の横矢掛かりを駆使した縄張りである。城は熊見川（現加里屋川）が形成した三角州の先端に立地した平城であり、往時は瀬戸内海に面していたことから干潟門、水手門、舟入が設けられた海城であった。元禄14年、江戸城松之廊下における藩主浅野内匠頭長矩が吉良上野介義央に斬りつけた刃傷事件に端を発し、47士の吉良邸討入りと続く「忠臣蔵」の舞台となった城である。

6 赤穂大石神社



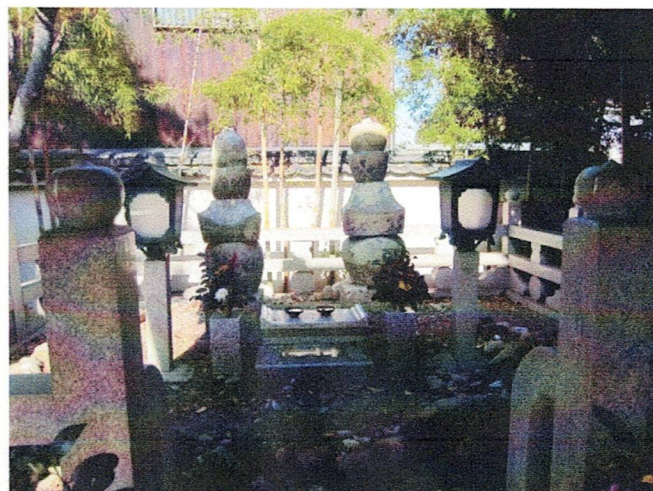
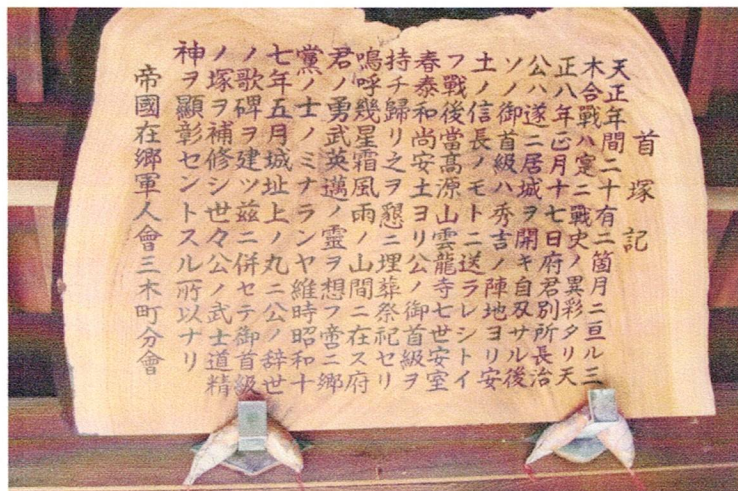
大正元年(1912)、大石内蔵助良雄はじめ 47 義士と菅野三平を主祭神として創建された。境内には国指定史跡の大石良雄宅跡長屋門や庭園、義士ゆかりの武具・書画を展示している。

7 三木城跡

15 世紀の後半に別所則治により築城されたとされている。秀吉による三木城攻めは、凄惨を極め、城主別所小三郎長治は兵士や領民の命を引き換えに一族とともに自刃したという歴史を刻まれている。本丸跡には「今はただうらみもあらじ諸人（もろびと）のいのちにかはる我身とおもへば」と記された長治公辞世の歌碑がある。

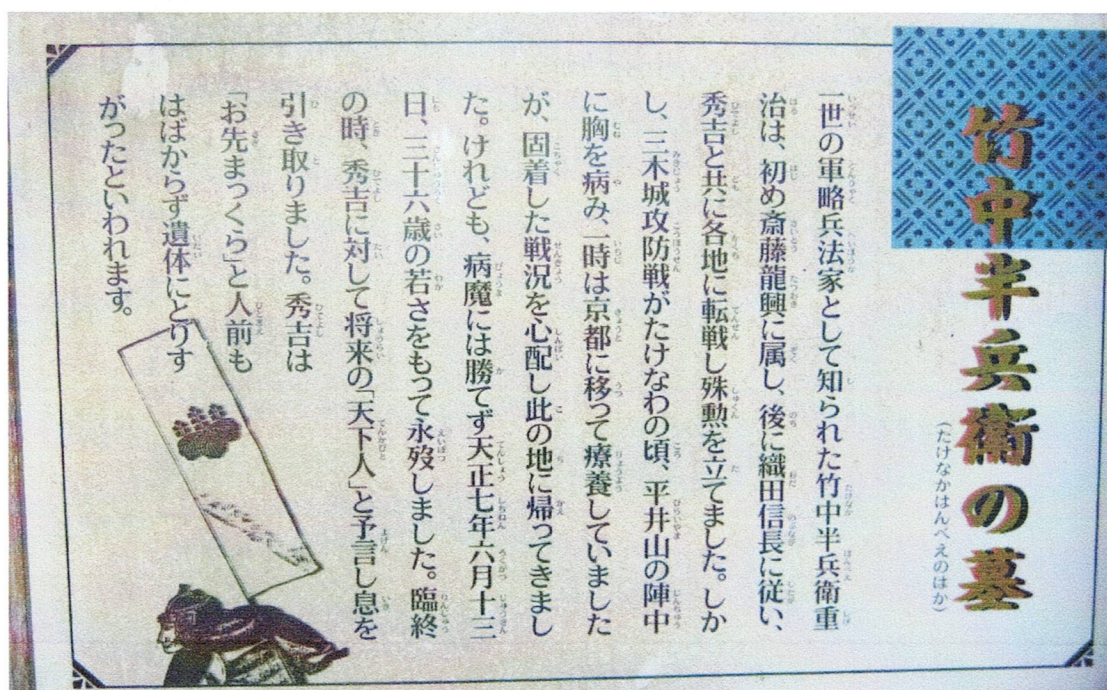
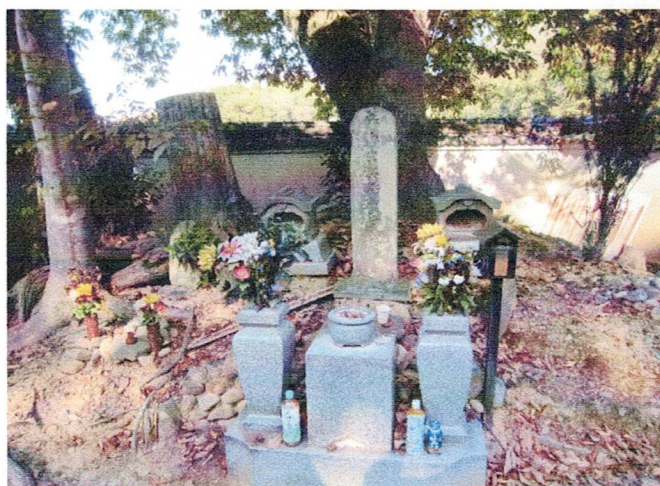


8 別所長治公首塚（雲龍寺）



天正8年（1580）1月17日、羽柴秀吉も三木城攻めに遭い、敗れて城主別所長治が自刃したときその遺体を埋めたと伝えられている。境内には別所長治公と照子夫人の首塚と供養塔がある。

9 竹中半兵衛重治のお墓



半兵衛は美濃出身の軍師で、秀吉の片腕として活躍した。三木城攻防の最中、平井山の陣中で病死した。本陣の西側の山麓に白い練り堀に囲まれた墓がある。

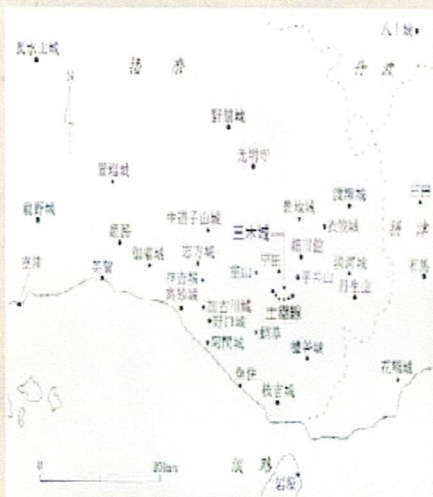
●三木合戦

三木合戦とは、天正6年(1578)3月から天正8年1月17日までの1年10ヶ月にわたる織田氏と別所氏との合戦をいいます。

天正5年11月、天下統一を目指す織田信長は部将羽柴秀吉に中国地方の毛利攻めを命じます。この時、別所長治も織田方について羽柴秀吉に協力することを約束します。しかし、翌年3月での加古川会談で秀吉との意見の食い違いを理由に別所氏は、毛利方に味方したことから信長が激怒し、秀吉に三木城攻めを命じたのが始まりです。

天正6年7月、織田信忠は、三木城の東北東の平井山に付城を築き、8月に帰国しました。以降、平井山は秀吉の本陣となりました。翌年4月、三木城の南側に新たな付城を築いて三木城の包囲をさらに嚴重なものとししました。同年6月に秀吉の軍師であった竹中半兵衛が陣中で病死し、9月には兵糧を三木城内に運び込もうと別所方が襲撃した際、秀吉方であった谷大膳が討死しましたが、同じく別所方であった淡河弾正など多くの部将も撤退の途中に八幡の森で割腹して最期をとげました。この後、新たに三木城に対する付城が構築されて包囲網が狭まる中、毛利方から三木城への兵糧搬入が行われなくなり、三木城内は「干し殺し」と呼ばれるまさに兵糧攻めの状態に陥りました。

天正8年になり、秀吉は本格的な三木城攻略に取り掛かります。別所方は、宮ノ上要害、鷹尾山城などが陥落したところで、城主別所長治が別所一族の自害と城兵の助命を条件に秀吉に降伏し、三木城が開城になったと伝えられています。



播磨周辺関係図

●三木合戦以降

天正8年1月17日、三木合戦終結直後に、合戦で荒廃した町の復興を意図した羽柴秀吉は、地子免許・諸役免除の特権を認める制札を出しました。これを拠り所に復興した三木町は、城下町から在郷町へ転換した江戸時代以降、地域経済の中心地の役割を担い続けることとなりました。

幕藩体制下の三木町は、84年が幕府領、187年が大名8家10藩の私領であり、幕府領であった期間の長さ、領主交替のめまぐるしさ、遠く離れた大名領の飛び地であった期間の長さに特徴があります。

三木といえば、「金物の町」と称されるように、大工道具の生産です。18世紀半ば頃、近畿一円の寺社建築で活躍していた三木大工との交流を通じて、大工道具の生産が始まったと考えられます。



連立式
天守閣
姫路城